

放射線防護のための線量及び健康リスク評価の精度向上に関する研究 事前評価

僭越ながら、確認ならびに意見（コメント）を述べさせていただきます。

（１）被ばく線量評価コードの開発について

既に放射線安全規制研究戦略的推進事業において JAEA 殿の開発された評価コードをベースにより精度を上げていく研究という位置付けという認識でよろしいのでしょうか。

研究の成果としては、先日の評価でもその有効性が確認され、使用者側の立場から申しますと 版も発出され、広く国内で一般使用ができるかという期待感があり、その確認です。

更にこの研究では、この 版についての意見などを吸い上げることになろうかと思えます。どのような団体でどのようなケースでの評価に扱われたのか分かりやすくまとめていただけると、凡例としても役立つのではないかと思います。

職業被ばくにおける内部被ばく事象が発生すると実態としては、医療介入によりキレート剤の投与が行われると思います。このような場合、体外への排出が促され、バイオアッセイ分析の結果などを考慮した評価が必要になると思います。このような排出因子も入力できるように開発されていくのでしょうか、排出された核種は体内残留として保守的に評価するのでしょうか、これはコード開発とは別議論かも知れませんが、ある程度の融通性を持った評価ができるコードが望ましいと考えます。

（２）放射線健康リスク評価コードの開発について

我が国の労災認定制度は、労働者救済の立場から科学的根拠とは一線を画した判断基準の元、認定されるという認識であります。多くは放射線被ばくによる労災については、「労災認定＝過剰被ばくによる発症」と捉え、実際に訴訟問題となるケースが後を絶ちません。このコード開発の主目的は原子力防災における防護基準やその措置への活用かと思えますが、放射線被ばくに対する理解活動にも活用できるのではないかと期待を致します。

東京電力ホールディングス株式会社 金濱秀昭